

鳥取県大山町の香取開拓

鳥取県大山町の香取開拓は、大山隠岐国立公園内の、名峰大山の北側中腹にある。

標高は350～1000[㍎]、冬には1～4[㍎]の積雪があり、火山灰土（大山黒土地帯）で酸性が強く、作物が育たない土壌だった。

この地に入植したのが、香川県出身の元満州開拓団100名だった。香取開拓の名は、香川県と鳥取県の文字からきている。

この地では過酷な現実が待っていた。香川では経験したことがない、2メートルも雪が積もる冬、フェーン現象で乾いた高温の風が吹きおろし、頻発する山火事など苦しい状況が続いた。

山麓は松林で、松根堀は大変な仕事だった。東京の三菱重工倉庫に南方戦線に送るはずだった15[㍎]戦車が何台もあったので、そのうち2台を借り受けた。建設会社に頼んで砲塔を切り、前面に排土盤、抜根装置をつけて改造した。この戦車は燃料を大量に消費するが良く働き、大きな木を倒し、岩をおこして開墾していった。

満州での経験を基に、水田ではなく、畑作畜産営農を推進した。しかし、食料増産の機運の中、家畜の導入がうまく行えず、しばらくは苦しい畑作経営が続く。

48年に香取開拓農業協同組合が設立し、本格的に開墾が進められた。

62年に開拓営農振興臨時措置法の適用や、66年の第1次構造改善事業の導入などで酪農は順調に伸びてきた。

66年の入植20周年には、香川県からはるばるやってきた自然石でできた入植碑が建てられた。

88年には国土庁主催の第3回農村アメニティコンクールで最優秀賞を受賞した。この賞は、農村地域の居住快適性にスポットをあて、「緑豊かな自然環境の保全」「機能性を備えた住みやすさ」「地域特性の活かし方」などを審査基準としており、香取村が農村アメニティ日本一に輝いた。

現在、酪農家の戸数は減少してきているが、毎年入植記念日に集まり、心地良い村づくりに励んでいる。

鳥取県大山町・香取開拓

- ①調査日 2016年5月17日
- ②所在 西伯郡大山町松川原
- ③地区の沿革 昭和20年11月入植
- ④設置年月日
- ⑤設置者 不明
- ⑥碑名 入植碑
- ⑦碑文（表面） 昭和20年11月入植 香取開拓入植碑
- ⑧碑文（裏面） 不明
- ⑨現在の状況 地区内で管理されている。

